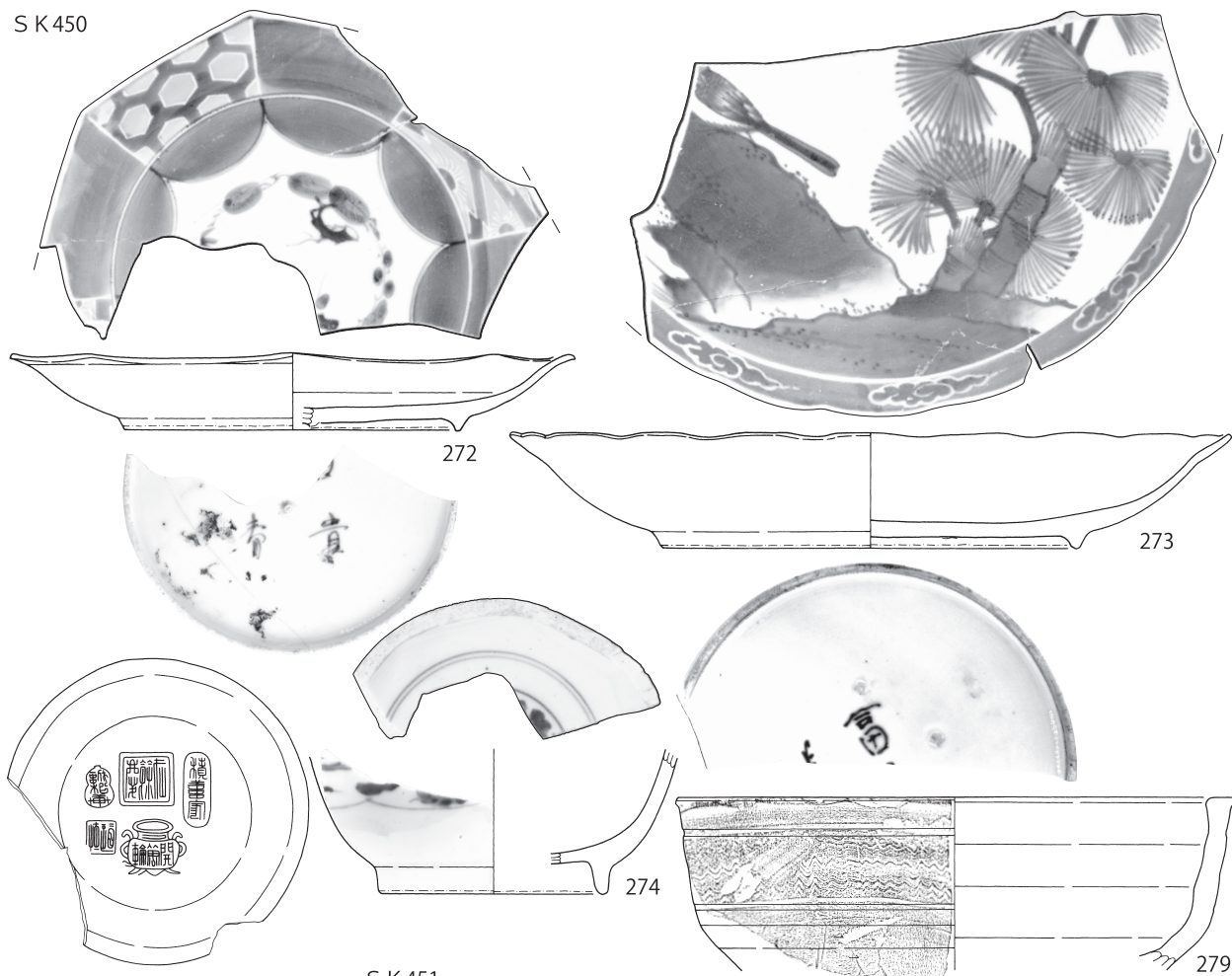
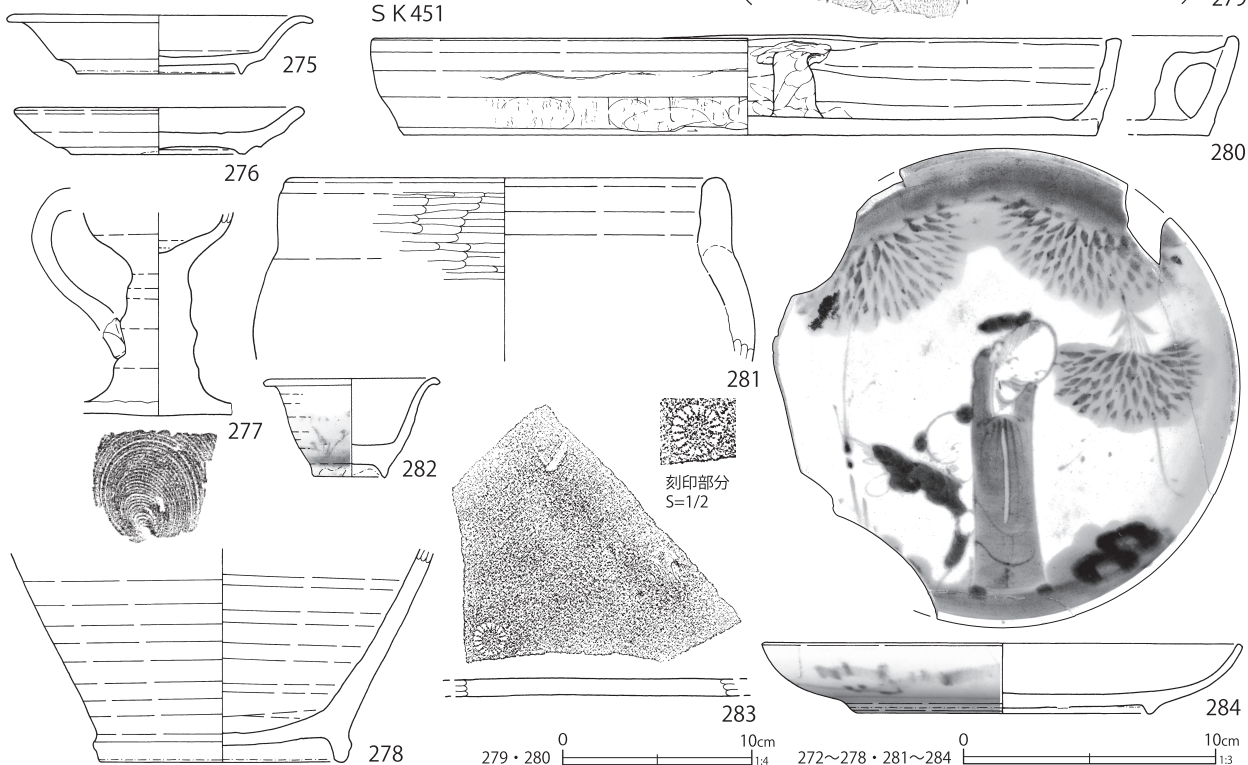


第 161 図 土壙出土遺物 (27)

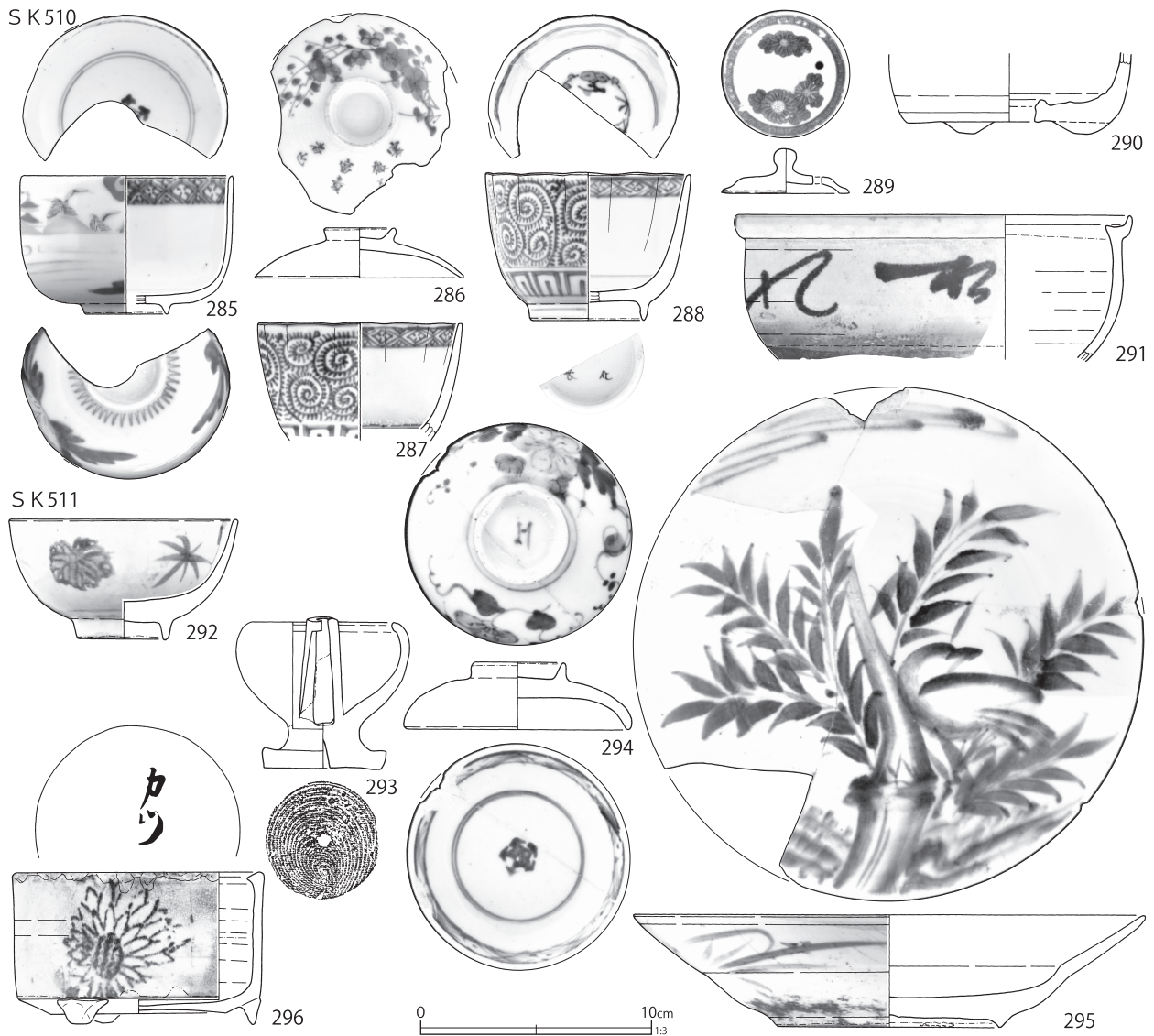
S K 450



S K 451



第 162 図 土壇出土遺物 (28)



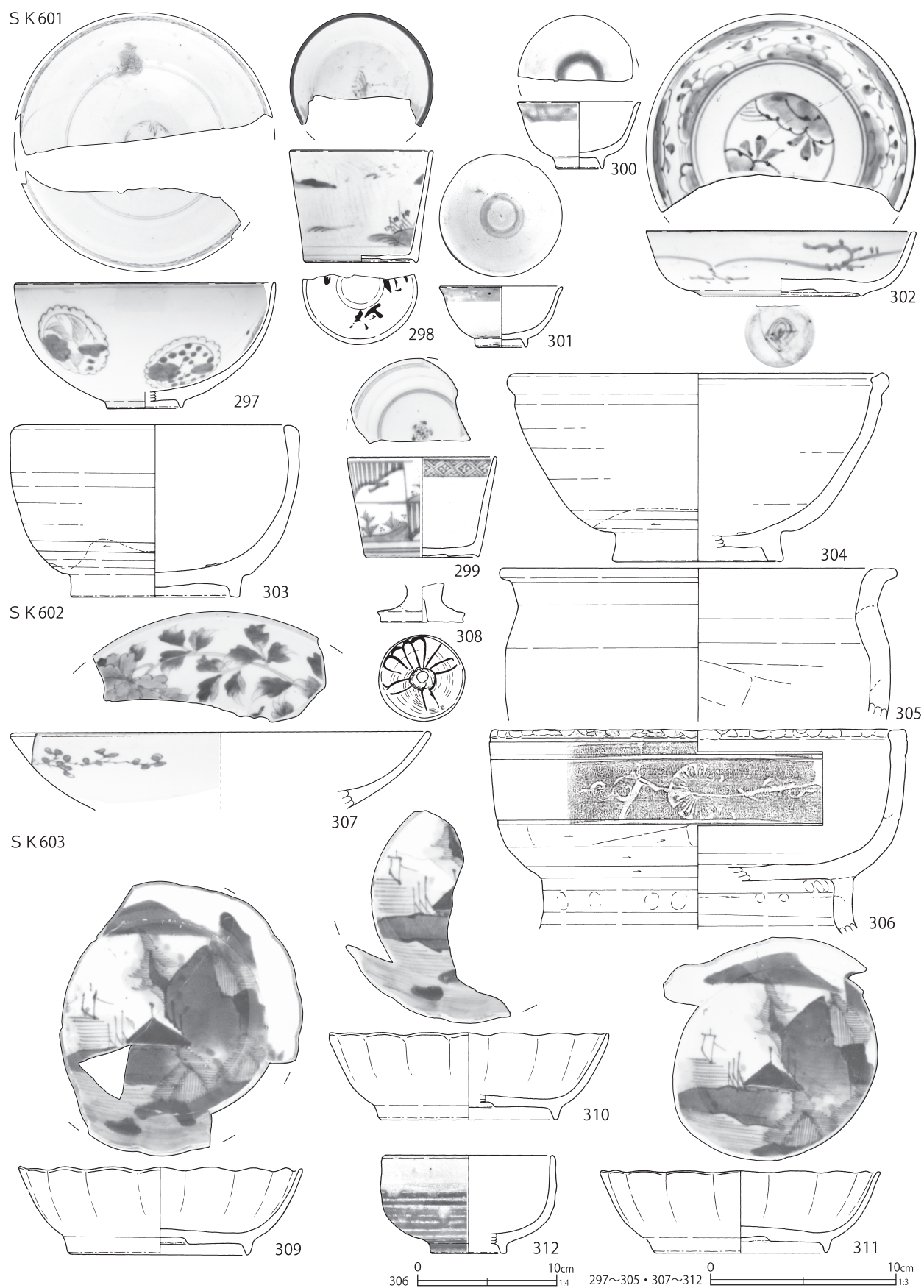
第163図 土壌出土遺物（29）

土壌で、主軸方向は第601号土壌がN-25°-W、第602・603号土壌がN-9°-Wを示す。東西に並列しており、第602号土壌が第601号建物跡を掘り込んでいる。いずれも炭化材・被熱した壁土を主体に瓦片を含む覆土で、火災処理に係る土壌と考えられる。各遺構の陶磁器を第164・165図297～315に示す。第601・602号土壌では300・301に示す瀬戸美濃系磁器杯のほか、非掲載遺物に湯呑形碗が認められる。また、第603号土壌では、高い蛇の目状高台を有す肥前系磁器の山水楼閣文皿がセットで認められる（309～311・313・314）。これらの様相は、第301・308・311・312号土壌

等の火災処理土壌より新しい。第602号土壌から文久永宝（第214図16）が出土しており、具体的には、1863年以降の19世紀第3四半期の火災に伴うと考えられる。第189図44～46、第198図129に各遺構の瓦を示す。

第605号土壌（第130図）

D6-A7・8グリッドに位置する不整形形の土壌で、第601・602号溝跡より古く、第606a号土壌より新しい。覆土には多くの陶磁器、木製品を含む。第165～168図316～396に陶磁器を示す。瀬戸美濃系磁器の篆刻文染付小碗（324）や、卵殻手坏（339・344）、型押反皿（345）が

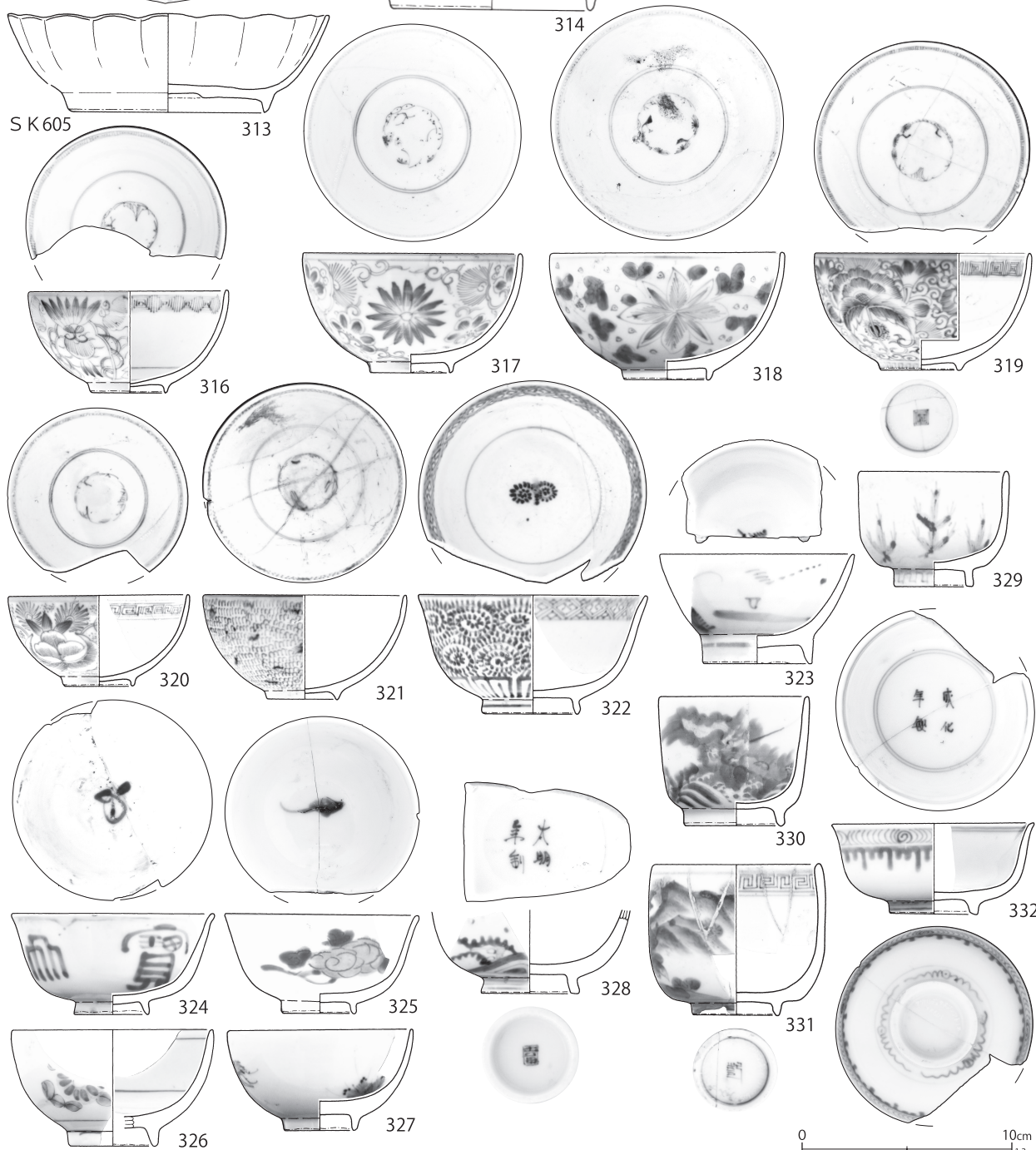


第 164 図 土壙出土遺物 (30)

S K 603

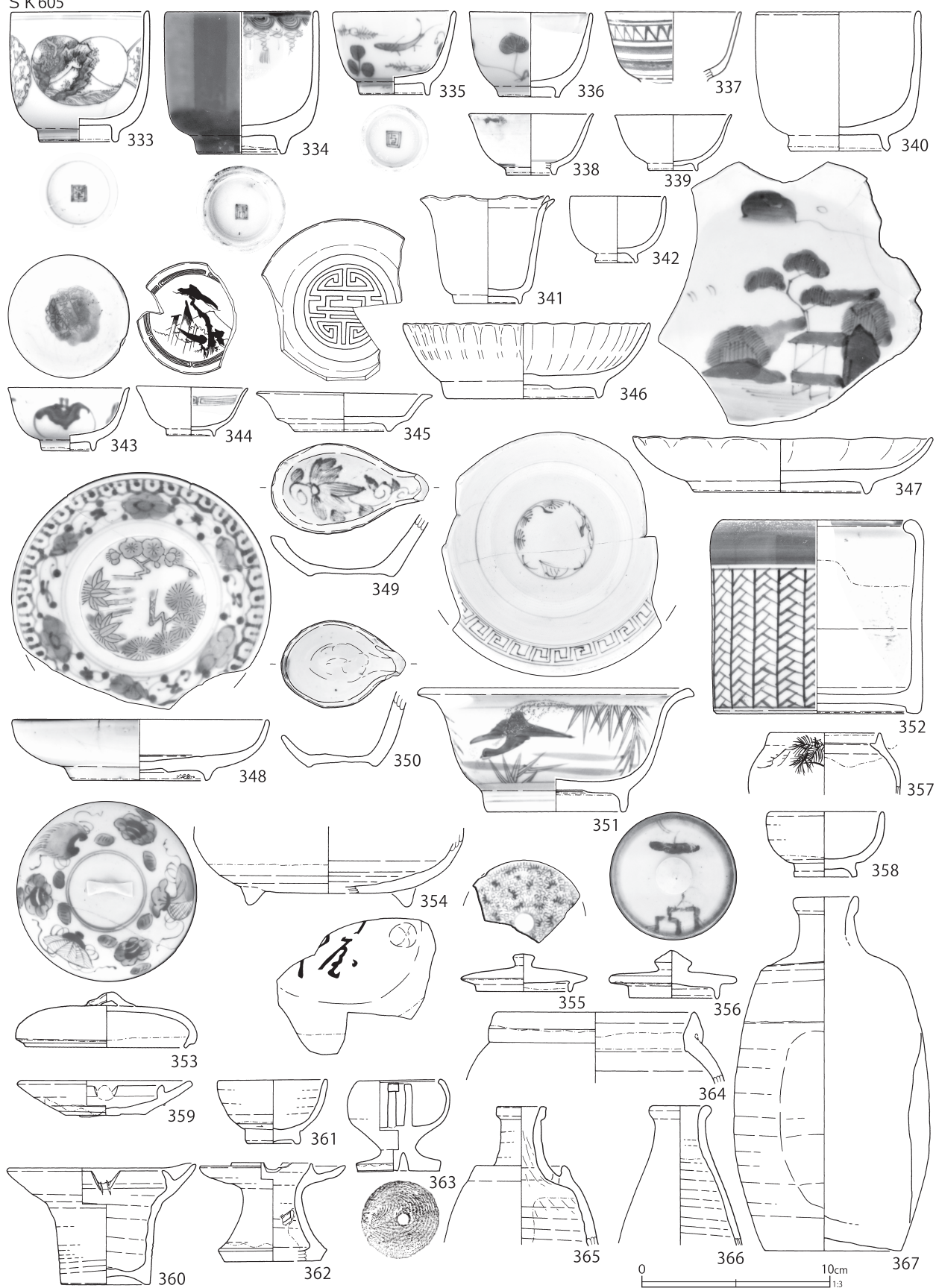


S K 605



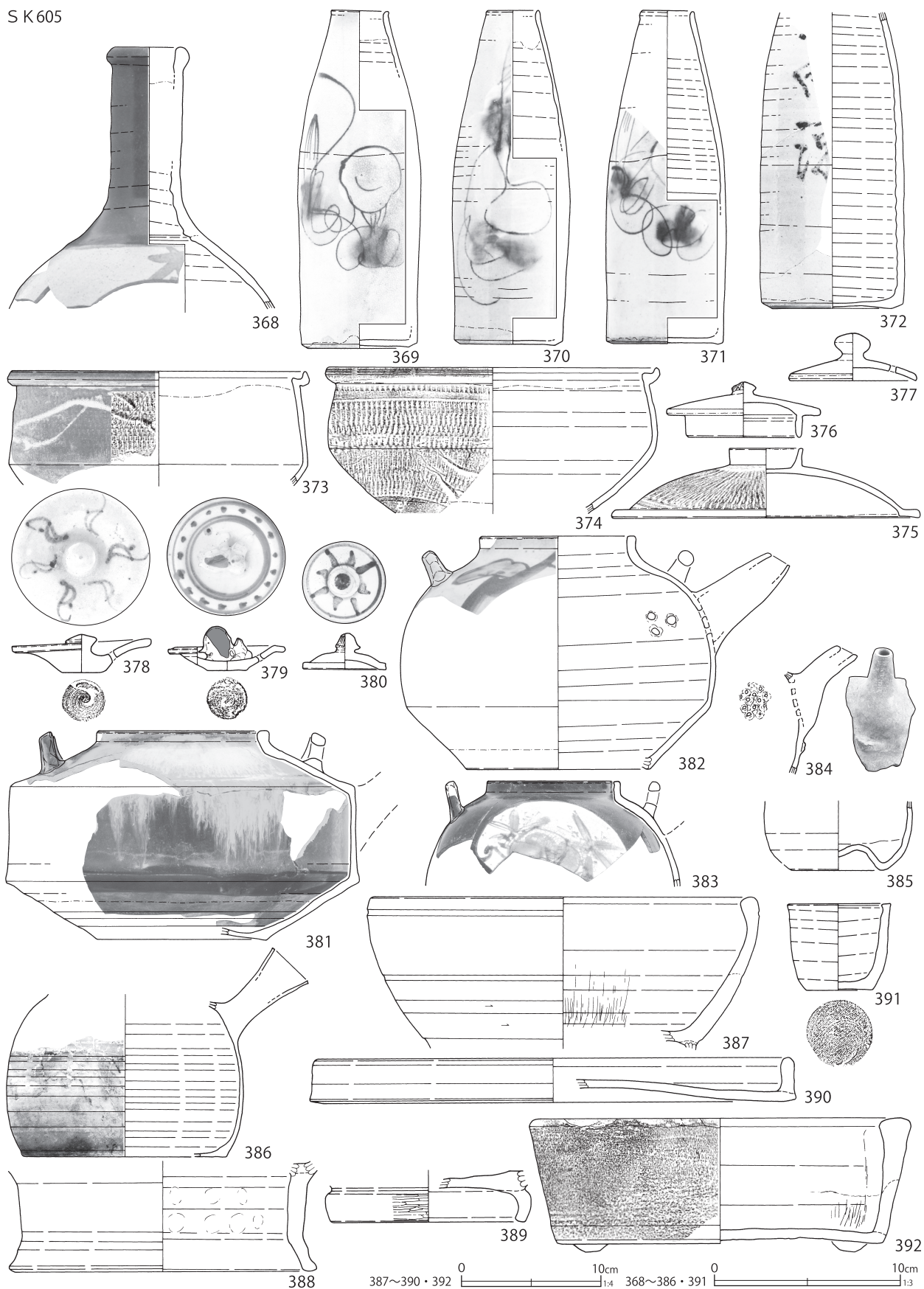
第 165 図 土壙出土遺物 (31)

S K 605



第 166 図 土壙出土遺物 (32)

S K 605



第 167 図 土壇出土遺物 (33)